

## 法話

### 浄土真宗で良かった

いつでもどこでも

抱きしめられている

本願寺布教師 松岡 満優 師

7月の末に、「7年前の今週」という題で、スマートフォンに写真が送られてきました。スマホの機能のひとつに、自分で撮った写真が1年後、2年後と忘れた頃に送られてくるというものがあります。

「7年前の今週」と題した写真は、花に埋もれた娘の唯の写真でした。棺いっばいの花の中に眠るように目を閉じて横たわる唯。写真を見て、「教えてもらわなくても、忘れるはずがない。今日も家族で手を合わせとおつとめしたよ」とつぶやきました。

7年前の7月21日午前4時20分、唯は5歳6ヶ月と2週間の人生を終えました。同時に、生まれた時から付き合ってきた「メチルマロン酸血症」という病氣と別れることができず、唯が息を引き取った時、妻は病院に向かっていたのですが、間に合いませんでした。生後2週間の息子とともに、実家に帰っ

ていたのです。

病室に入るなり、妻は「唯ちゃん、ごめんね。間に合わなかったね」と、ほほ笑みながら涙を流して床に座り込んでしまいました。

「唯が入院する時は、いつも付き添っていたのに。唯が寂しがるから、いつもそばにいたの。唯はどうして私がいなくていいところまで死んでいかなければならないの。」

そう独り言のようにつぶやく妻に私は「そうかあ、今な、唯が息を引き取った時、唯ちゃん、阿弥陀如来という仏さまが唯ちゃんのことを、しっかり抱きしめてくださるから心配しなくていいんだよって言うておいたからね」と涙と鼻水で、ぐちゃぐちゃになった顔で、絞り出すように言いました。

妻は『それなら安心ね』と一瞬、明るい顔になってくれました。

「ご自分で産んだお子さんを亡くされる悲しみは壮絶です。お父さん、どうか奥さんのささえになってあげてください」と、医師から病院を出る時に言われました。

妻と唯、そして、この娑婆に生れたばかりの龍真を車に乗せて自坊へと向かいました。

「ささえてあげてくださいと言われても、こっちが崩れ落ちそうだ」と思っていると、妻が「おとうちゃん、浄土真宗でよかったね。お念仏いただいてよかったですね」と、私を励ますように言ってくれました。

ささえ励まされなければならぬ私が励まされ、元気づけられていました。情けなさを感じながらも、その言葉は唯がしゃべってくれているようで、車の中の3人が、それを聞かせていた。

「うん、うん」と涙で前が見えなくなると、涙で目をしばたかせながらうなずくと、妻が「いつか私がお坊さんになることがあったら、法名は釋唯照がいいなあ。いつも唯ちゃんと一緒にいられる気がするから」と続けました。

「唯に照らし、唯照らしされるか。」

流れる涙をぬぐいながら、そう考えつつハンドルを握り続けました。

大いなる船に乗り、昨年、11月20日に妻が得度式を受けさせていただきました。本山の聞法会館で待つ私と6歳になった龍真のもとに、度牒の手に笑顔で駆け寄って来た妻の

顔は輝いて見えました。

「右の者を度して本宗僧侶となし法名釋唯照を授ける」

その文字が見えるように度牒を胸の前に持ち、はにかんでほほ笑む妻と龍真の写真がスマホで撮りました。

「度す」とは、「渡す」ことです。仏さまが、人々を迷い此岸から悟りの彼岸へと渡すこと、迷いから救うことです。

親鸞聖人は『教行信証』の最初に「ひそかにおもみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船」(わたしなりに考えてみると、思いはかることのできない阿弥陀仏の本願は、渡ることでできない迷いの海を渡してくださる大きな船である)と記されています。

写真を撮った私は「おめでとう。浄土真宗でよかったね。お念仏いただいてよかったですね」と妻に言いました。

「それって、ママがおとうちゃんに言った言葉じゃなかったっけ？」という龍真を抱きしめる私の写真を、今度は妻が撮りました。

いつでも、どこでも、どんな時でも抱きしめられている。抱かれている。阿弥陀さまに。大いなる他力の中に。

## 教誓寺 法要のお知らせ

新型コロナウイルス三年目、様々な規制が緩和され、感染状況が収束に向かいつつあるように思われています。

教誓寺の秋の法要は、引き続き感染防止対策を取った上で執り行います。墓参や法要等で、過密状態を気にする事は、減多に起こらないので、道中安全なら安心してお出かけ下さい。

## 秋期彼岸会法要

9月23日(金) **秋分の日**  
○法要 午後2時より  
ご都合のつく方は、時間に合わせてお参り下さい。

御彼岸の期間は  
9月20日(火)～26日(月)です。

## 報恩講法要

報恩講は、浄土真宗門徒にとって最も大切な行事です。宗祖親鸞聖人の亡くなられた日を今日の曆に換算すると一月十六日になり、本山では、宗祖のご恩に感謝する「御正忌報恩講」が勤まります。教誓寺では、十月の第四日曜日に報恩講をお勤めいたします。

令和4年10月23日(日)  
○法要 午後一時より

○来年の浄土真宗カレンダーを差し上げます。お赤飯とおまんじゅうを、お土産にお持ち帰り下さい。

○お参りの時には門徒式章をご着用下さい。

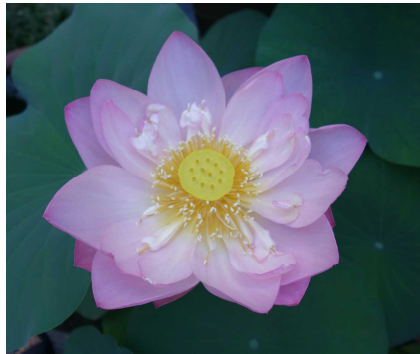
○教誓寺所属僧侶のみでお勤めします。法話は、法要後に住職が行います。

○報恩講の御齋(お食事)は、取りやめます。

○手指の消毒をお願いします。

○お互いの安心のため、マスクの着用をお願いします。

○教誓寺の生き物蓮の開花



今年も不安定な天候の中、8月6日に咲き始め、3日ほどで散ってしまいました。次の花芽の出るのを期待しましたが、あいにくの雨続きで二輪目はありませんでした。

いつもは離れて鑑賞していましたが、ふと、香りはどんなだろうと、そっと花をたぐり寄せて、香りを嗅いでみました。その香りは、期待したとおりの上品でさわやかな香りでした。ほんの短期間で早朝だけ

でしたが、丹精したご褒美として、楽しませて貰いました。

新しい発見  
左の写真のツマグロヒョウモン(チョウチョです)が、お寺の中で卵から成虫になるまで育ているのを確認しました。幼虫やサナギの写真は、苦手な方もいるので割愛しました。



ツマグロヒョウモン

そのほかにも、オオミズアオという大きなきれいな水色の蛾も来ていました。たくさん生き物が、私たちの周りにそっと暮らしています。今年の夏も、色々な生き物たちに楽しませてもらいました。

### 教誓寺維持会費について

本年度も維持会費ご納入有り難うございます。これからの方も早めにお願ひ致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺  
10810073

東京都港区三田 一十二一  
〇三(三四五)一二九  
kouseiji@js4.so-net.ne.jp